



2020年7月10日

日本鉄道労働組合連合会

## JR東海ユニオン第29回定期大会の議案採決を確認

# かつてない難局を一致団結して乗り越える!

JR東海ユニオンは7月8日、ホテルアソシア豊橋において第13回拡大中央執行委員会を開催し、書面にて手続きを進めてきた第29回定期大会の2020年度運動方針をはじめとする各議案が賛成多数で採決されたことを確認した。



新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため書面にて定期大会を開催すると判断して以降、議案書を各代議員・特別代議員に送付して意見を聴取し、意見に対する答弁書を作成して再度各代議員・特別代議員に送付した上で議決権行使書を回収し、さらに回収時にも意見聴取を行ってその答弁も用意し、当日まで代議員・特別代議員との意思疎通を積み重ねてきた。

鎌田茂中央執行委員長は冒頭の挨拶で「将来にわたる会社の発展と組合員・家族の幸せを実現するためには、労働組合としての歩みを決して止めることはできない。このような異常時だからこそ、より各機関、組合役員、組合員の相互間で意思疎通を密にする必要がある。職場の最前線で働く組合員の労苦にユニオンが想いを馳せ、寄り添い、ともに頑張る。そういう活動を展開していく」と決意を示した。

来賓のJR連合尾形泰二郎事務局長は挨拶で、現下の情勢下で組合員に寄り添う労働組合の重要性が高まっていると述べた上で、「JR産業を取り巻く環境が大きく変化する中、未曾有の難局を乗り越えるためにも労使がそれぞれ役割を發揮し、連携していくことが重要である。そのためにもユニオン運動を一層充実強化してほしい」と強く訴えた。

本委員会は、10月に臨時大会を招集して各議案を追認することを前提に、出席した各地方本部・総支部の代表者14名と運動方針や予算等の議案の要点を共有した。そして、質疑応答で相互に理解を深めてから議決数の確認を行い、各議案と大会宣言の採決を確認した後、鎌田委員長の団結ガンバローで意思統一を図った。